

「(仮称)道の駅まるこ」基本計画(案) 概要版

1. 背景と目的

丸子地域の西部を通る国道 254 号は県土の中央部を東西に横断し、物流や交流はもとより地域振興と観光面から極めて重要な幹線道路であり、災害時の「緊急輸送道路」に指定されています。令和 2 年 9 月の三才山トンネルの無料化に伴い交通量が増加し、通過交通が引き起こす騒音の改善や交通事故抑止に向けて、集落を迂回するミニバイパスなど順次整備を進めています。

三才山トンネルの無料化や少子高齢化等の課題に対応するため、導入機能・規模、運営について、民間活力を最大限活用することにより低廉で良質なサービス提供ができる(仮称)道の駅まるこ整備について基本計画(案)としてまとめました。

2. 基本的な方針

(1) 基本理念

国道 254 号の道路利用者に対しての休憩機能と、市の魅力・サービス・情報を提供することで

- ・地域の防災力の向上
- ・地域経済の好循環
- ・交流人口の拡大
- ・本市や丸子地域のリピーターの獲得
- ・定住人口の増加 等

地域の様々な課題の解消に向け国道 254 号沿道へ「道の駅」を整備します。

(2) コンセプト

上田のソムリエ、道の駅まるこ

- 『ウエストゲート』として、観光や防災を「手助けする」道の駅
- 「道先案内人」として、デジタル化を推進した地域全体を牽引する道の駅
- 地域住民・事業者と観光客の『win-win の関係』を構築する「立役者」として活気のある(稼げる)道の駅
- 災害対応力を向上させる「丸子地域の防災空間」としての役割を担う道の駅
- 来訪者に過ごす時間を充実させ「満足感を味わってもらえる場を提供する」道の駅



(3) 基本方針

本道の駅が防災と地域振興の拠点としての役割を担うための整備の基本方針を決めています。

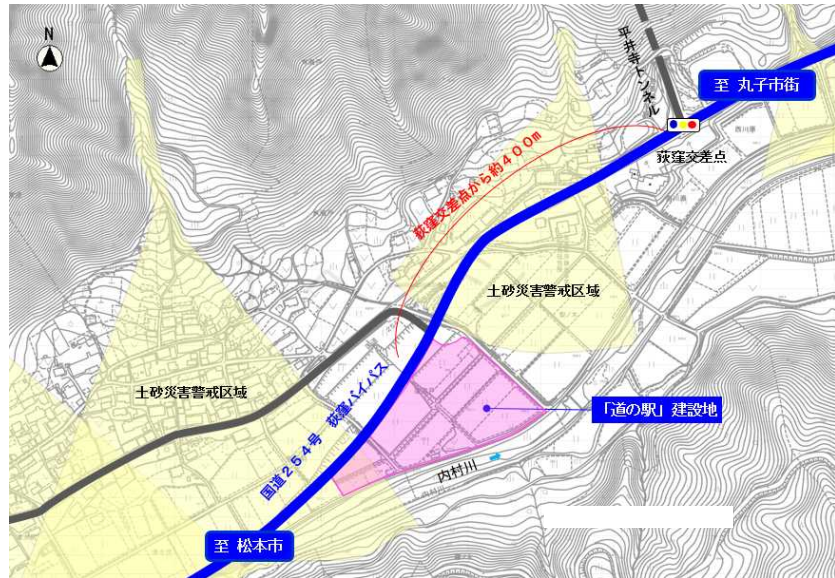
“ まち とともに創る 道の駅 ”

- 方針 1 防災機能の拠点としての道の駅
 - ・地震等の災害時に地域住民が利用できる緊急避難所としての機能を持つ
 - ・道路利用者の安全な交通のため、休憩所、一時待避所及び情報発信機能を持つ
- 方針 2 地域経済循環の拠点としての道の駅
 - ・地元で採れた新鮮野菜や果物、ワイン等の特産品を販売する機能を持つ
 - ・民間が持つマーケティング力で地元事業者が元気に稼ぐ機能を持つ
- 方針 3 目的地としての道の駅
 - ・自然とのふれあいや・文化の香り高い究極のオアシスとしての機能を持つ
 - ・丸子温泉郷など観光と一体となった賑わい創出の機能を持つ
- 方針 4 「まち」と道の駅が一体のまちぐるみで取り組む道の駅
 - ・ひとが集うまちづくりの拠点としての機能を持つ
 - ・まちぐるみの戦略的なしなかけを実施する機能を持つ

「(仮称)道の駅まるこ」基本計画(案) 概要版

3. 建設地(位置図)

国道254号沿線で「敷地面積」、「災害危険エリア外」、「沿線自治会の推薦地」を満たす候補地から、敷地形状からアクセス性等の観点から総合的に評価し選定しました。



4. 導入機能・施設規模

(1) 本道の駅における導入機能・規模一覧

基本構想や他事例、民間意向等を踏まえ、以下に示す規模は必須とします。

機能	施設	施設概要	規模
休憩施設	駐車場・トイレ	24時間利用可能な駐車場とトイレ	トイレ 186 m ²
	子育て施設	授乳室やベビーコーナー等	25 m ²
情報発信機能	情報提供施設	通行規制等の交通情報や観光情報を発信	50 m ²
地域振興機能	特産販売所	観光客向け特産品と日用品も取り扱う	400 m ²
	農林水産物直売所	観光客に地元農産物、新鮮な食材を提供	300 m ²
	飲食施設	産直野菜を堪能、災害時は炊き出し	350 m ²
	屋外交流広場	子どもが遊べるコミュニケーションの場	1,300 m ²
	EV自動車用充電器	将来の自動車の電動化に対応	30 m ² (2台)
防災機能	緊急避難所	平常時には民間活力で交流人口を創出	420 m ²
	備蓄倉庫、自家発電機、ヘリポート		- m ²
バスターミナル	乗降場	路線バスや長距離バスが発着	119 m ²
共用部・付帯施設			適宣
全体敷地面積			約 19,500 m ²

(2) 本道の駅における駐車台数

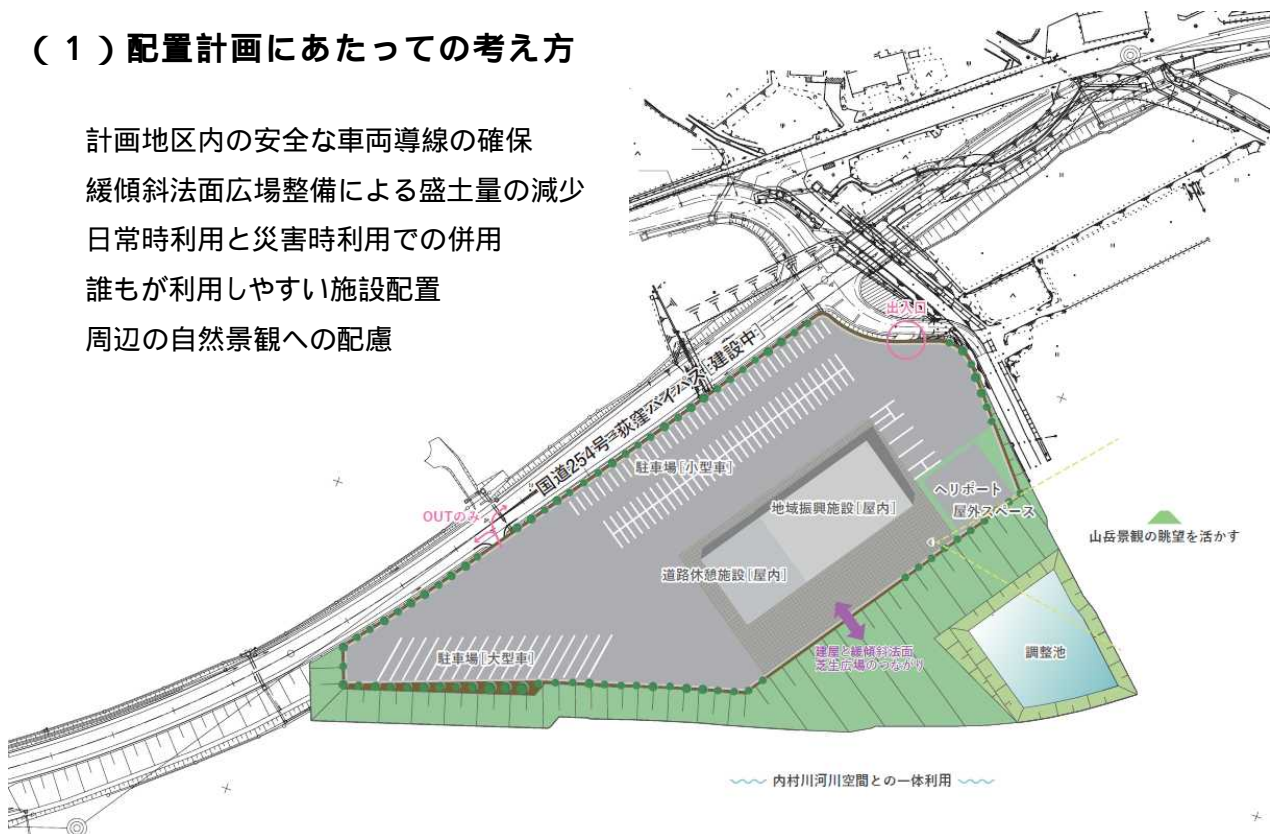
項目	道路休憩施設	地域振興施設	合計
小型車	37 台	71 台	108 台
大型車	13 台	4 台	17 台
身障者用	1 台	2 台	3 台

「(仮称)道の駅まるこ」基本計画(案) 概要版

5 . 施設全体の整備計画

(1) 配置計画にあたっての考え方

計画地区内の安全な車両導線の確保
緩傾斜法面広場整備による盛土量の減少
日常時利用と災害時利用での併用
誰もが利用しやすい施設配置
周辺の自然景観への配慮



6 . 官民連携事業スキーム

(1) 整備手法

「(仮称)道の駅まるこ」は整備候補地に接する国道254号(整備が進められているバイパスを含む)の管理者である長野県と上田市が「一体型」の道の駅として整備を行います。

(2) 事業期間

官民連携事業の事業期間は、事業の性質にもより異なるものの、一般的には長くなるほど民間事業者の創意工夫が発揮されVFMが発現することが期待されることや、先進事例の事業期間としても15年を設定しているものが多いことを踏まえて、19年(設計・建設4年、維持管理・運営15年)とします。

(3) 事業手法

設計～維持管理・運営までの包括委託が可能であり、維持管理・運営を考慮した施設整備により、民間ノウハウの活用が期待できるDBO方式が調査では示されたが、金融機関の監視により事業の安定化・財政支出の平準化が期待できるPFI方式を基本とします。

- ・PFI方式の優れている点 民間ノウハウ発揮、運営サービスの向上
事業の安定性、財政支出平準化

「(仮称)道の駅まるこ」基本計画(案) 概要版

7. 市の財政負担額

上述で整理した道の駅の導入機能や規模をもとに維持管理・運営段階における市の財政負担額を示す。

(1) 施設整備費(長野県負担分を除く)

項目	金額(税込み)
調査・測量等	80,600 千円
用地補償費	103,700 千円
建設・土木設計	89,100 千円
建設工事	1,035,500 千円
土木工事	330,900 千円
建設工事監理	22,700 千円
その他施設	57,600 千円
令和6年度までの費用	45,352 千円
市負担分 計	1,765,452 千円

整備計画段階における建設費の上限値として設定し、今後の設計等の段階において、外装や内装等の無駄な豪華さを抑えたり、必要機能・規模を精査するなども行い、施設整備費の軽減に努めるものとします。

ただし、建設時までの物価スライドは考慮するものとします。

(2) 費用分担の整理

本業務における費用分担を以下に整理する。

導入機能		設計・建設		維持管理・運営	
		費用負担	業務実施者	費用負担	業務実施者
休憩機能	トイレ	県	民間	市	民間
	子育て支援機能	県	民間	市	民間
情報提供施設		県	民間	市	民間
駐車場		県・市	民間	市	民間
地域振興機能	特産販売所	市	民間	民間	民間
	農林水産物直売所	市	民間	民間	民間
	飲食施設	市	民間	民間	民間
	屋外交流広場	市	民間	民間	民間
防災機能	緊急避難所(災害時)	市	民間	市	市
	緊急避難所(平常時)			民間	民間
	備蓄倉庫	市	民間	市	市
供用部・付帯施設		市	民間	市・民間	民間
提案機能		民間	民間	民間	民間

: 面積按分

8. 事業スケジュール

項目	R7	R8	R9	R10	R11
事業者募集					
法令手続き等					
設計・建設等					
					